

第2回北・北海道中央圏域 定住自立圏共生ビジョン懇談会議案顛末

・日 時 平成24年1月23日(月)
午後3時00分～4時30分
・場 所 名寄市民文化センター 多目的ホール

1 開 会

司会：名寄市進行

2 座長あいさつ

挨拶：清水池座長

3 議 題

(1)北・北海道中央圏域 定住自立圏共生ビジョン(素案)について

説明：名寄市説明（正誤表、議論の視点） ⇒ 質疑なし

説明：士別市説明（第1章、第2章） ⇒ 質疑・意見なし

説明：名寄市説明（第3章、第4章） ⇒ 別添

4 その他

共生ビジョンへの委員名簿の掲載、ホームページへの会議録掲載について承認
次回、懇談会はパブリック・コメント実施後の3月を予定

5 閉 会

(別添)

第3章 圏域の将来像

(委員)

北・北海道中央圏が一体となり、地域振興を図っていくことは非常に大事だと考える。実際に事業内容に反映させていくことが大事だと思う。

ヨーロッパの事例では、基礎自治体が地域振興を単独で行うことはほとんどない。地域自治体の規模が小さいため、各自治体でやることは効果が薄い。自治体が一体となって地域振興を行うことが普通となっており、ある程度まとまった地域で振興を図り、その下にある地域ごとに独自性をアピールしている。

将来像の中身自体はいいが、こうした中身でできるよう意識し、事業内容を考えていく必要がある。

(委員)

6次産業化とは何か？

(委員)

農家は1次産業である。農家が農産物を作り、ただ売るのではなく、農産物を加工する。加工することは2次産業である。1次産業である農家が2次産業もする。それに止まらず、加工した農産物を売ったり、自分でレストランを作って販売するなど、農家が1次産業もする、2次産業もする、3次産業もする。これを足すと6になる。これを6次産業と言っている。

(委員)

最後の段落で「圏域を構成する自治体が連携・協力しながら」とあるが、この中にそれぞれのサービスを共有するという文言が入れば、より具体的に事業が進んでいくのではないかと。

(名寄市)

「自治体が連携・協力する」という対象になるものが、公共のサービスになるため、この中に含まれていることをご理解をいただきたい。

第4章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取り組み

I 生活機能の強化に係る政策分野

1 医療

(委員)

この圏域については医者が不足している。士別市では市立病院があるが、医者が不足しているため、総合病院としての機能を果たしていない。名寄市立総合病院と連携しながら圏域の医療対策を充実させていく必要がある。今までも連携しながら医療に取り組んでいるが、さらに、この小項目にわたって広域化に取り組んでいくことは結構なことだと思う。圏域の中で病院間の連

携を取りながら、地域住民の健康を守っていくことが図られるとよい。

(委員)

現在はこうした体制がなく、24年度からは実施できるというものが、それとも今までやってきているものが事業として載っているのか？

(名寄市)

共生ビジョンでは24年度からとなっているが、すでに実施している事業である。

(委員)

先ほど士別市の現状が話されたが、当町もなかなか医師が見つからない現状がある。こうした機会に士別市だけではなく、名寄市も全体的に探していただける体制を取っていただけるとよい。

救急では士別市の救急車をお願いしている。消防職員2人を出向して、経費を負担しているのが現状であり、今後とも続けていただきたい。

(名寄市)

名寄市立総合病院では、中川町、音威子府村、士別市立病院に医師派遣を行っている。剣淵町については、ここ数年は行っていないのではないかとと思われる。当市立総合病院は、新聞報道にもあるとおり、新年度から消化器内科の医師が見つかったが、すべて医師を充足しているわけではない。ご提言の件は、充分検討していくが、大学の医局の協力が必要になってくるため、要望・要請していきたい。

(士別市)

救急医療体制について、消防には数年前から近隣の職員に来ていただき、消防を含めた救急体制を強化している。救急車両については、逐次、パラメディカルの車両を導入することを計画的に進めている。今後も引き続き、安心できる救急医療体制をつくっていきたい。

2 福祉

(委員)

高齢者福祉の入所施設数が掲載しているが、名寄は人口の割に少なく、士別が多いと感じる。名寄では施設に入りたい方がたくさん待っている。圏域を形成することによって、13市町村の施設に入れるようになるのか？

(名寄市)

決して名寄市の施設は少ないわけではないと認識している。名寄市の特別養護老人ホームは180床あり、管内では一番多い床を持っていると自負している。

福祉施設は24年度から介護保険料に反映することになっているが、現在、名寄市では全国平均の約2割ほどのアップを考えているが、安定資金と準備基金の取り崩しによって、半分に抑えた保険料を考えている。決して名寄市では施設が少ないとは認識していないし、保険料が高いという認識もしていない。

各福祉施設への入所については、昨年にオープンした士別市の福祉施設に、名寄市から11

人か12人の方がすでに入所している。全道の各施設にもご厄介になっている状況があり、現在も名寄市の施設だけではなく、それぞれの市町村にある施設に入所できる状況になっている。

3 教育

(委員)

「生涯学習機会の充実」は「北の花だよりの発行」と「公共施設の相互利用」の2項目になっているが、講演やイベント等の共同開催などによって、生涯学習機会を充実していただきたい。

また、「北の花だより」が生涯学習情報紙となっているが、題名がこれでは植物の便りに感じてしまう。

(名寄市)

「北の花だより」については、上川北部の社会教育主事会が現在発行している情報紙のタイトルであり、今後もそれを継続し、各市町村が取り組んでいる生涯学習の事業について、各市町村に情報を提供していくことで入れさせていただいた。

講演等の共同開催については、今後の課題とさせていただきたい。現状のビジョンの中では、各市町村との協議が整っていないため、検討させていただきたい。

4 産業振興

(委員)

この13市町村の観光は、自然観光でどこも同じような体系である。記載のとおり、ブランド化を促進して、総合的なPRを連携していくことは大事なことだと思う。しかし、あまりにも競い合いがあって、似たような産品が続々と出てくるが、それが定着しない状況にある。これを文言として整理していくには、どのような方法を用いることがいいのか。

北海道第二の大河である天塩川の下流は天塩町になっている。現在、天塩町と連携強化をいかに図ることができるかの作業を進めようとしている。総体的に関わりのある連携強化をどう模索していけばいいのか。何か良いアドバイスがあればお聞かせ願いたい。

(名寄市)

圏域内のブランド化の検討については、それぞれの地域でブランド化を考えていると思われるが、道北観光連盟含めて検討していきたい。

天塩川下流域との連携では、北・北海道中央圏域には天塩町、幌延町、豊富町は入っていないため、今回の共生ビジョンの中では連携することはできない。共生ビジョンとは別に、北海道のプロジェクトの中では天塩川流域の事業をやっている。「天塩川」というキーワードでPRしていければ、道北圏域をPRする武器になるものと思われる。

(委員)

北・北海道としての地域振興を考える場合、天塩川が一つのシンボルとしていいのではないかなと思う。共生ビジョンでも北・北海道中央圏のブランド化が記載されているが、個々の市町村による独自性も大事だが、統一的なブランドを作るのであれば、統一したテーマがなくてはならず、そ

の方向にみんなが向かっていかなければ、統一的なブランドはできないと思う。そうしたことを議論する場がなければならない。それぞれの取り組みだけでは、お互いがお互いを打ち消し合って、結局、何がしたいのかがわからなくなる恐れがある。今ある既存の組織で考えるのであれば、道北観光連盟になるのかはわからないが、そうした場が大事になってくると思う。すぐできる話ではないが、そうした問題意識がなければ統一したブランドは難しいと考える。

(委員)

イベントによる観光の流通人口の拡大をどうするか。道北の地域でさまざまなイベントを開催されていると思われるが、冬まつり系はどこも同じ時期にやっている。最低限、圏域の中で人が動けばいいのだが、みんな同じ時期にイベントを開催するため、圏域内の近場の人も来てもらえないし、遠くの人にも来てくれない。先ほどの道北観光連盟もそうだが、地域連携を話し合う場があるとよい。道南や他の町から来てもらえるとよい。そのためには6次産業を絡めたクラスター的な地場産のブランドがあればいいのだが、それに乗ったイベントを開催できればいいのかもしれない。名寄のイベントは、今まで観せるイベントをやってきたが、毎年同じことをやっているとお客さんが飽きてしまう。観せるイベントから参加させるイベントに変えていかなければ、人は集まってこないと思う。今回、冬のイベントには鍋-1グランプリをやって、各地で先祖代々食べている鍋が各町にあるのではないかという発想から、市外、道外から参加してもらいイベントを企画している。人が動いてもらうためには、魅力あるイベント、仕掛けをしなければならない。PRについては、チラシやポスターを各市町村に配布しているが、同じ日にイベントが重なれば、その町にポスター・チラシを送っても目につかないため、時期的な調整ができればいい。また、圏域がまとまってPRする方法もメディアなどを使って、道北の観光や人集めのPRをしていければいいと思う。

5 その他

(委員)

消費生活相談事業があるが、新聞では何日かに1回かは振込詐欺にあっている。各町内会や各自治会でお年寄りの方に浸透させていただきたい。

II 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

1 地域公共交通

意見なし。

2 道路等の交通インフラの整備

(委員)

高速道路は徐々に整備されてきているが、「JR宗谷本線の高速化などの促進を図る」という一文がある。高速化よりも札幌から帰って来るダイヤが必要である。札幌から帰って来るためには、昔は11時ぐらいのダイヤがあったが、今は夜の8時以降のダイヤがない。こちらから札幌に

行く時も接続する列車がない。高速化も必要だが、21時以降に帰って来るダイヤがあれば、札幌のイベントに参加しても宿泊しないで帰って来ることができる。

(名寄市)

札幌から名寄までは、枕木をコンクリートに変えて高速化になっている。名寄から稚内間はなっていない。宗谷本線活性化推進協議会では、毎年、JRに対して要望会を行っている。高速化についてはこれまでもお願いしているが、先ほどの時間帯についても皆さんが要望するところであり、JRからは今の状況では難しいという回答を受けている。明後日、幹事会を開催し、2月には要望会を行っている予定である。

3 地域内外の住民との交流促進

(委員)

移住の促進は非常に大事である。前提には移住したい人にとって、魅力ある地域になるのが大前提となる。移住促進のためにイベントや施設整備が行われると思われるが、その際に道北地域に移住して来た人の意見を取り入れていただければ、より効果的なイベントや施設ができるのではないかと思うので検討をお願いしたい。

Ⅲ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

1 宣言中心市等における人材の育成

意見なし。